

# ESDの視点に立った小学校家庭科における 地域を題材とした授業開発

三浦彩花\*・鎌野育代\*\*

Sayaka MIURA・Ikuyo KAMANO

Development of Lessons on Regional Subjects in Elementary School Home Economics from the Perspective of ESD.

## 要 旨

本研究は、加賀ら(2018)が開発した「家庭科ESDシート」を用いてESDと地域を視点とした家庭科の授業を開発するとともに、授業実践による児童への教育効果を以下の二点について検討した。

1. 国立教育政策研究所(2012)が示したESDで身につけたい7つの能力や態度を基盤に質問項目を独自に開発し、授業の前後に量的調査を試みた。
2. 地域に対する情意、認知、意識、関わり・行動という4観点において地域への態度について質問項目を独自に開発し、授業の前後に量的調査を試みた。

結果、小学生は地域に対する態度が高まること、ESDで身につけたい能力や態度については、未来を見通して考える力、多面的、総合的に考える力、つながり・かかわりを尊重する態度、主体的に参加しようとする態度が学習後に有意に高まることが明らかとなった。また、本実践を通して児童は、地域の人々と自身の生活との関わりという家庭科ならではの地域の捉え方が深まったと考えられる。今後、題材となる地域の扱い方をさらに検討していくことが重要である。

【キーワード：ESD、地域、家庭科、小学生】

## 1. 問題の所在

地球温暖化から始まり、現在も各地で頻発している紛争、格差問題、文化の破壊、近年のコロナ問題も含め今や地球規模での課題が山積している。このような危機的状況の問題解決のためには、これらの問題を認識し、持続可能な社会づくりの担い手を育成していくことが重要であり、学校教育への期待が高まっている。この持続可能な社会の担い手づくりの概念としてESDを挙げることができる。また、近年はSDGsの普及もあり、持続可能な社会の実現に向けての理解が広がっている。このESDとSDGsの位置づけについてESD活動支援センター(2019)は「教育が全てのSDGsの基礎」とともに「全てのSDGsが教育に期待」しているといわれていること、ESDに引き続き取り組み、より一層推進することが、SDGsの達成に直接的または間接的に貢献できることを示している。

家庭科は、衣食住などに関する知識・技能を習得し、実生活で活用することで生活をよりよくしようとする資質・能力を育てることをめざした教科である。学習指導要領の改訂に伴い家庭科、技術家庭科家庭分野においては、「持続可能な社会の構築」や「消費生活や環境に配慮

した生活」に関する内容・学習活動の充実が図られ、家庭科と持続可能な開発のための教育(ESD)との関連が示された。妹尾(2013)は家庭科が最終的に「生活の質の向上」を目指し「主体的な生活者を育てる」というねらいをもって実践が行われていたこと、ESDは「参加・体験型的手法」「課題解決型」「多様な人々との学び合い」「学習者の主体性を尊重する」など学びのスタイルの見直しという視点をあわせ持っていることから、家庭科は教科の学びそのものがESDとなる可能性を持つと述べている。西原(2018)も家庭科はESDをリードする教科であるとして、家庭科は持続可能性に関わる課題と密接にかかわっており、家庭科をESDとしてより魅力的にしていこうためには、教師が持続可能性と各学習内容との関わりを意識して工夫を重ね学習内容や授業の方法の質を高めていくことが大切であるとしている。

ESDにおいて、度々掲げられる“Think Globally, Act Locally”があるが、この言葉は「現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む」(文部科学省, 2016)や「地球規模で考え、地域で行動する」(環境省, 2002)、などと訳される。また石田(2008)は、子どもたちの力でいきなり世界を変えることは不可能だからこそ、視点は地球規模で広く持ちながら、実際には身

\* 出雲市立塩冶小学校

\*\* 島根大学教育学部小学校教育専攻

近なところ、自分たちにできるところから地道に行動し、改善していくことが大切であると述べ、地域を題材とした学習を推奨している。

以上のことから家庭科の学習内容である地域の学習をESDの視点から実践することの重要性が示されているといえる。家庭生活は地域の中で行われており、児童が日常的に関わる他者や目で見て触れる環境があるのもまた地域である。平成29年告示の小学校学習指導要領解説家庭編（文部科学省，2018）に掲載されている新旧内容項目を比較するとA（3）における記述が近隣の人々から地域の人々へと変更され、家庭生活と地域の人々との協力の大切さへの理解の重要性も示された。土屋（2017）は、家庭科の学習は学校と・地域とを行き来させることでよりよい生活の実現につなげることができることから、地域の人たちとかかわる場面や地域に対して働きかけていく活動を授業の中に積極的に取り入れる必要があり、このような授業を展開することは市民性の育成につながると述べている。さらに、大竹ら（2011）は家庭科で地域を教材化する意義として、具体的な生活実態にせまることで自分の生活問題を当事者性で把握することだと論じている。

このように、小学校家庭科においては、児童が家庭生活と地域との関わりやつながりに気づくことのできる機会や地域に働きかけていく活動が求められている。また一方で、家庭科教育の中で「地域」を単独で題材として取り上げ授業を展開している事例はあまり見られないのが現状である。これは、地域というものが教師や児童にとって捉えにくく、つかみどころのない題材であることが原因として考えられる。加えて、柳（1996）はその地域教材によって何を教えようとしたのか、何を考えさせたことになるのかについては、曖昧な場合が少なくないと指摘している。これらの指摘からも、近年注目される持続可能な社会づくりに貢献できる人材の育成にとって家庭科の地域の学習が児童にどのような教育的効果があるのか、またどのような課題があるのか明らかにしていくことは、ESDと家庭科教育の発展にとっても非常に重要である。

以上のことから、本研究では家庭科における地域の学習を通し、児童が自分の生活と地域とのつながりを認識することで、自分の生活が地域や社会に与える影響について自覚し、地域や未来のためによりよい生活のあり方を模索できると仮定する。そして、ESDの視点から家庭科の地域の授業実践を計画・実施し、その効果を明らかにすることを目的とする。ここでの授業開発については、加賀ら（2018）の開発した「家庭科ESDシート」を用いる。これは、授業の構想段階で用いるものであり、題材設定の理由や指導計画に加えてESDの視点から授業分析を行うことができる点に特徴がある。家庭科の実践をESDとして構想するための指針となるものであり、同時に家庭科の授業をESD実践として評価するための指針にもなるという点で優れている。「家庭科ESDシート」における〈授業分析〉については国立教育政策研究所（2012）

「学校における持続可能な開発のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕」に示された事項を基盤に作成されている。なお、本研究では、「地域」を「自分の家の周辺や住んでいる町」と定義づけた。

## 2. 目的

本論では、家庭科におけるESDの学習効果を明らかにするために、以下の2つの視点から研究方法を決めた。

- ①家庭科の授業を質の高いESDの実践とするため加賀ら（2018）の開発した「家庭科ESDシート」を用いて授業の開発を行う。
- ②児童生徒のESDに関する能力や態度をアンケートにより調査するとともに、授業後に同じ調査を実施することで児童生徒への教育的な効果を明らかにする。

これまでもESDを視点とした家庭科における実践研究は様々な領域においてその知見が示されている（加納，2017）（篠原，2016）（竹下，2016）（上野ら，2016）。また佐藤ら（2019）はESDの理念を適切に授業実践に取り入れていくことができるようにすることが重要であり、そのためのツールとして「家庭科ESDシート」（加賀ら，2018）の積極的な活用を求めている。地域との関係が深く、家庭科において地域を題材とした授業実践研究を一層推進していく必要がある。

以上のことから、地域という視点からESDの授業の構想段階において①の「家庭科ESDシート」（加賀ら，2018）を用いて授業開発を行う。

②に関してはこの種の教育的効果に加えて、前述したようにESDという概念は結果を量的に検討することについては、一面的であるとの批判もあるが、本研究においてはESDの学習効果を数量的に示すことで、他の領域へ発信する際のわかりやすさを考えて、この方法を選んだ。また、教育的な効果だけでなく、児童のESDに対する能力や態度の実態についても、明らかにされていないことからこの方法に取り組むこととした。

以上から本研究の目的は次の2点とする。

- ・ESDと地域を視点とした家庭科の授業開発を行うこと
- ・児童生徒のESDに対する能力や態度を明らかにするとともに、学習による教育的な効果を明らかにすること

## 3. 方法

### (1) 授業開発について

加賀ら（2018）の開発した「家庭科ESDシート」の授業分析では、設定した題材で授業者が重視しているESDの概念（多様性、相互性、有限性、公平性、連続性、責任性）、育成したい資質・能力、学びの方法を確認した後、具体的な授業方法を記入していく。そして、授業実践後にESDの観点からその題材についての考察を記入していくものである。

授業開発にあたって、初めに「家庭科ESDシート」のねらい、題材設定の理由（表1）を作成した。作成に当たり、学習指導要領や県の教育の方向性と単元の関連について考えた。

次に、〈指導計画〉(表2)を作成した。学習内容や活動を計画した後、〈授業分析〉(表3)を作成し、〈指導計画〉(表2)の構成概念欄に重視している概念をアルファベットで記入した。そして、〈授業分析〉(表4, 5, 6)を作成し、具体的な授業のビジョンを明確化した。〈指導計画〉(表2)の授業方法欄には、〈授業分析〉(表6)に具体的な授業方法の項目番号を記入した。単元全体を貫く構成概念として、「相互性」を全ての学習活動で関連させた。これは、生活と地域や社会との「つながり」を重視する概念であり、家庭生活は地域の中で営まれることを鑑みても適当だと考えた。上述した手順で作成したシートを基に、全3時間の学習指導案を作成した。なお、1時間目は、「わが家とのつながりを見つけよう」として、自分の身の回りや家庭の中で、家の外から来たものや家の外とつながっているものについて目を向けさせた(表7)。2時間目は「わが家とのつながりの調査計画を立てよう」として、ワークシートに書き出した、わが家とのつながりから調べるテーマを決め、調査の計画を立てた(表8)。その後、児童たちは持ち帰ったテーマについて、地域に出てインタビューをしたり家族に聞いたり、インターネットで調査を行うなどした。最後の3時間目は「わが家とのつながり調査の報告会をしよう」として、調べたことを発表する時

間を設定した(表9)。児童の調べたテーマは、地域の回覧板、電気、ガス、水道といったものであった。

## (2) 調査

### 1) 調査対象と時期

調査対象は、国立大学附属小学校5学年2クラス(計60名)である。質問紙の分析に当たっては、欠損値があった児童を除いた50名(男児23名、女児27名)を分析対象とした。実施時期は、2020年9月9日～9月30日であり、各クラス3時間ずつ、合計6時間実施した。なお、授業担当者は、授業実施時に国立大学教育学部に所属していた第一著者であった。夏休みの時期より、該当クラスを担当する教諭と数回打ち合わせを行い、指導案への助言、指導案の修正を行った。

授業前後に効果を測るための質問紙調査と、学習後に自由記述による調査を行った。調査時期は2020年9月～10月であり、授業実施前と授業実施を終えてから1か月後に調査を実施した。調査の実施については、家庭科の授業の中で成績には関係ないことを伝え、回答を求めた。なお、自由記述による授業の振り返りは、全3時間の授業実践後に実施した。

表1 作成した「家庭科ESDシート」

題材名 (単元名)	わが家と地域のつながりを 探ろう	対象	小・中・高2年
		実施期間	5年生9月上旬～9月末
授業者	国立大学教育学部初等教育開発専攻4回生 M		
ねらい	①自分の生活と地域や社会とのつながりに気付く。 ②自分の家庭や地域での実践を通して自分の生活と地域や社会とのつながりを実感し、地域や社会の一員としてよりよい生活の在り方を考えたり、考えたことを日常生活に活かそうとしたりする。		
題材 (単元) 設 定の 理由	学習指導要領の改訂に伴い家庭科、技術・家庭科家庭分野においては「持続可能な社会の構築」や「消費生活や環境に配慮した生活」に関する内容・学習活動の充実が図られている。小学校家庭科においても「家族・家庭生活についての課題と実践」(実践的な活動を家庭や地域等で実施)という学習内容が新設された。 島根県総合教育審議会による「今後を見通した島根県の教育の在り方について」の答申には、「子どもが自身の生まれ育った地域との確かな絆」を学びの原点とすることで、地域社会や日本の将来、あるいは世界にはばたこうとする心豊かな人を育てるという「教育の魅力化」の方向性が示されている。 そこで本単元では、子どもたちが自分の住む地域に目を向け、自分の生活と地域や社会とのつながりについて実践を通して見つけられるような活動を考えた。また、見つけたつながりを可視化する活動を行うことで自分は地域や社会の一員であることを実感し、よりよい生活の在り方について考えてみる機会にしたいと考えた。		
キーワード	家庭生活と地域、持続可能な社会、持続可能なライフスタイル		

表2 〈指導計画〉(計3時間) ※1:特に関連する構成概念のアルファベットを記入  
※2:①(講義)を除く学習方法の数字を記入

回	学習内容・活動	構成概念 ※1	授業方法※2
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の行動や生活と地域が密接に関わっていることを実感するために、自分の身の回りや家庭の中にあるものと自分の住む地域や社会とのつながりを図に表す。</li> <li>描いた図を友だちと見せ合ったり、これまでの他教科での学習を思い出したりしながらつながりの視野を広げ、図に新たに見つかったり予想したつながりを加筆する。</li> </ul>	A、B	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>見つけたつながりに疑問を書き込む。</li> <li>疑問をもとに、自分の生活と自分の住む地域や社会とのつながりの中で詳しく知りたいつながりを決め、ワークシートを用いて調査方法を考える。(課題：次時までには調査をし、調べたことをまとめた成果物を作る)</li> </ul>	B	(③)
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域で調査した内容についてまとめた報告書を持ち寄り、調査を通して考えたことや感じたことを自分の言葉で発表する。</li> <li>「Think Globally Act Locally」(地球規模で考えて、地域で行動する。)のスローガンを聞き、現代社会を生きる私たちに求められていることを認識する。今の自分にできそうな取組をいくつか考え、その取組が地域や社会に与える影響(効果)を予想する。</li> </ul>	B、C、E、F	⑤、⑨

表3 〈授業分析〉

## 1 重視している概念(考え方)

国立教育政策研究所(2012)の示したESDの構成概念		重視している概念(考え方)	家庭科の特性をふまえたESDの構成概念に関する内容
人を取り巻く環境に関する概念	多様性	A ○	わが家と地域のつながりは多種多様であるということ。
	相互性	B ○	私たちの生活は地域や自然と相互に結びついており、関わりあっていること。
	有限性	C ○	私たちの生活を支える資源には限りがあるということ。
人の意思・行動に関する概念	公平性	D	生活にかかわる権利が地域や世代を渡って保障され、公平であること。
	連携性	E ○	わが家と地域のつながりを考え、自分の生活を工夫すること。
	責任性	F ○	今の自分にできることを考え、進んで行動しようとする事。

表4 重視している学びの方法

2 重視している学びの方法（授業づくりで意識していること）

- 1) 参加型の手法を取り入れる
- 2) 生活での実践や社会とのつながりを意識する
- 3) 他教科や他学年の学習とのつながりを意識する
- 4) 多様な世代（地域）の立場を意識させる
- 5) 学習者の主体的な学びを尊重する
- 6) 人や地域の可能性（地域資源）を活かす
- 7) 互いに学びあえる
- 8) ただ一つの正解をあらかじめ用意しない
- 9)（関心・体験・探究・振り返り等の）ストーリー性がある

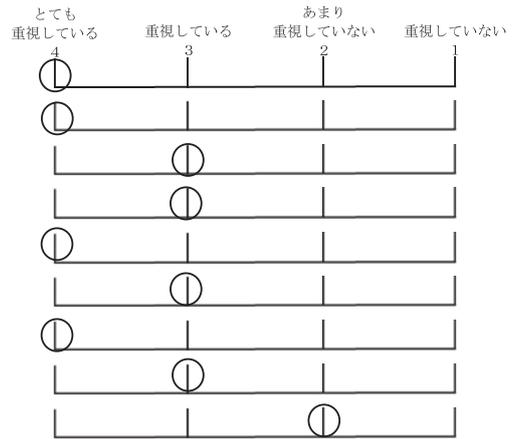


表5 重視している力や態度

3 重視している力や態度（育成したい資質・能力）

- 1) 批判的思考力（ものごとの本質を見抜く力、分析的に考える力）
- 2) 未来を見通して考える力
- 3) 多面的、総合的に考える力
- 4) コミュニケーション能力（聞く・話す・伝えるを行う力）
- 5) 他者と協力する態度（協働）
- 6) つながり・かかわりを尊重する態度（人・もの・ことなど）
- 7) 主体的に参加しようとする態度

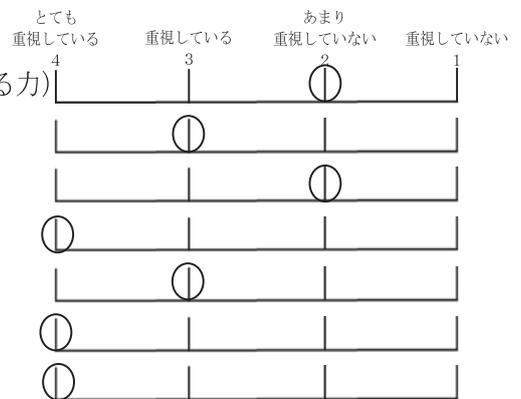


表6 具体的な授業方法

①講義		⑥討論・ディベート		〈外部発信・交流〉		
②実験・実習 ・体験		⑦ロールプレイ		⑪施設訪問 ・交流	⑮国内外へ	
③調べ学習	○	⑧インタビュー		⑫HP・配布 物	⑯行政等へ	
④グループ学 習		⑨視聴覚教材	○	⑬イベント ・行事		
⑤発表・プレ ゼン	○	⑩ICTの活用		⑭地域等へ		

表7 第5学年 家庭科学習指導案(1時間目)

2020年9月9日(水) 3校時(5-2)

9月11日(金) 3校時(5-1)

授業者 国立大学教育学部 初等教育開発専攻4回生

**1 単元名** 我が家と地域のつながりを探ろう**2 目標**

- (1) 自分の生活と身近な地域や社会とのつながりに気付くことができる。(知識・技能)
- (2) 自分の生活と地域や社会とのつながりを図に表したり、生活体験や他教科での学習と関連させながら調べたいことや調べる方法を決めたりすることができる。(思考・判断・表現)
- (3) 地域や社会の一員としてよりよい生活の在り方を想像し、自分にできそうな取組を考えたり、取組の効果を予想したりすることができる。(学びに向かう力・人間性等)

**3 展開計画(全3時間 本時1/3)**

○自分の行動や生活と地域が密接に関わっていることを実感するために、自分の身の回りや家庭の中にあるものと自分の住む地域や社会とのつながりを図に表す。(1時間目・本時)

○前時に描いた図を友だちと見せ合ったり、これまでの他教科での学習を思い出したりしながらつながりの視野を広げ、図に新たに見つかったり予想したつながりを加筆する。図の中から自分の生活と自分の住む地域や社会とのつながりの中で詳しく知りたいつながりを決め、調査方法等を考える。(2時間目)

○家庭や地域で調査した内容について発表し合い、調査や発表を通して考えたことや感じたことを自分の言葉でまとめる。これまでの図や報告書を見ながら「世界的な視野で考え、身近なことから取り組む」という現代社会を生きる私たちに求められていることを認識し、自分にできそうな取組をいくつか考え、その取組がつながりに与える影響(効果)を予想する。(3時間目)

**4 本時の学習(全3時間 本時1/3)****(1) 本時の目標**

自分の生活と自分の住む地域や社会にはつながりがあることに気付き、つながりを図に表すことができる。

**(2) 展開**

学習活動と子どもの取組	教師の支援と評価
<p>1. 自分の身の回りや家庭の中で、家の外から来たものや家の外とつながっているものがどのくらいあるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家電は電気屋さんで買ったものだな。</li> <li>・野菜やお肉は□□スーパーで買っているな。</li> <li>・電気やガスも外から来ているな。</li> </ul>	<p>○自分の身の回りや家庭での生活を振り返るきっかけとして家の外とのつながりを思い浮かべる活動を行い、自分の生活が様々な人・もの・ことと密接に関わり合って成り立っていることを実感するための手立てとなるようにする。</p>
<p>めあて わが家とのつながりを見つけよう。</p>	
<p>2. 自分の生活との共通点や差異点を考えながら、教師が提示する生活と地域とのつながりの例を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うちの近くにも公民館があるな。</li> <li>・お母さんが近所の人から野菜をもらうな。</li> </ul> <p>3. 自分の生活と家の外(地域)がどのようにつながっているか考え、ワークシートに書き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日食べるお米は△△スーパーで買っているな。</li> <li>・使った水は排水溝からどこへ行くのかな。</li> <li>・隣の家の人がこの前きゅうりをおすそ分けしてくれたな。</li> </ul>	<p>○本時の学習活動の見通しを持てるよう例を提示し、自分の生活と地域とのつながりを見出す視点を与えられるようにする。</p> <p>○中心を「わが家」に設定したワークシートを用いることによって自分の生活を中心に据えて地域とのつながりを捉えられるようにする。</p> <p>○つながりの範囲(地域名等)を設定しないことで、児童それぞれが表したい自分の生活と地域とのつながりを表現できるようにする。</p> <p>○見つけたつながりを友だちと共有したり、これまでの学習を振り返って考えてみたりすると自分の生活と身近な環境(自分の住む地域)とのつながりがさらに見えてくる可能性があることを伝える。</p>
<p>4. ワークシートをペアで見せ合い、自分の図を発展させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○○さんは△△スーパーでお米を買っているんだな。うちはおばあちゃんがくれるから、おばあちゃんの家とのつながりをかこう。</li> <li>・家の中で使うものだけでなく、家の中で出たごみも家の外につながっているのか。</li> </ul>	<p><b>評価の観点(知識・技能)(思考・判断・表現)</b>          自分の生活と自分の住む地域にはつながりがあることに気付き、図に表すことができる。          (評価方法:ワークシート)</p>

表8 第5学年 家庭科学学習指導案(2時間目)

9月11日(金) 4校時(5-1)

授業者 国立大学教育学部 初等教育開発専攻4回生

(1) 本時の目標

生活体験や他教科での学習と関連させながら調べたいことや調べる方法を決め、調査計画を立てることができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの取組	教師の支援と評価
<p>1. 教師のつながりの図に疑問が書き足されるのを見る。</p> <p>2. ワークシートに書き出したつながりに赤ペンで疑問を追加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜゴミ出しの曜日が決まっているの？</li> <li>・使った水は排水口からどこに行くの？</li> </ul>	<p>○教師が提示したつながりの図に疑問を書き足すことで、調査したいわが家とのつながりを見つけやすくする。</p> <p>○書き出したつながりに疑問を持つことで、調査への意欲をもたせる。</p>
<p>めあて わが家とのつながりの調査計画を立てよう。</p>	
<p>3. 調べてみたいつながりを決め、調査計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力者は誰が良さそうかな。</li> <li>・家族や近所の人に聞き込み調査をしたら分かるかな。</li> <li>・町にあるお店を見て回ろうかな。</li> <li>・2日間あれば調べられそうだな。</li> <li>・持ち物は何がいるかな。</li> </ul> <p>4. 調査報告書の例を見ながら調査計画を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見つけたつながりを写真に撮って貼ると分かりやすそうだから、カメラを持って行こうかな。</li> <li>・誰が見ても分かりやすい報告書にしよう。</li> <li>・報告書を作る時間もいるから調査はすぐに始めよう。</li> </ul>	<p>○計画を立てるために必要な項目を予め記したワークシートを配ることで計画を立てやすくする。</p> <p>○項目に空欄をいくつか用意することで自分の調査に必要な項目を適宜増やせるようにする。</p> <p>○計画を立てるときに注意する点(金銭面や安全面等)をワークシートに載せておくことで、無理のない調査計画を立てられるようにする。</p> <p>○調査報告書(成果物)の例を配ることで調査計画を見直したり、調査への意欲を引き出したりするきっかけとする。</p> <p>○例をいくつか用意することでどのようにしてまとめようかを考えながら調査できるようにする。</p>
<p><b>評価の観点(思考・判断・表現)</b></p> <p>生活体験や他教科での学習と関連させながら調べたいことや調べる方法を決め、調査計画を立てることができる。</p> <p>(評価方法: ワークシート)</p>	
<p>○授業後、調査計画を添削し、無理なく十分な調査ができるようアドバイスをを行う。</p>	

表9 第5学年 家庭科学習指導案(3時間目)

2020年9月25日(金) 3校時(5-1)

9月30日(水) 3校時(5-2)

授業者 国立大学教育学部 初等教育開発専攻4回生

## (1) 本時の目標

自分の住む地域や私たちの未来のことを考えたよりよい生活の在り方を想像し、自分にできそうな取組を考えることができる。

## (2) 展開

学習活動と子どもの取組	教師の支援と評価
<p>1. グループで調査報告会を行うための準備とグループ分けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査方法と調査結果をしっかりと伝えたいから報告書を読み返そう。</li> </ul>	<p>○調査結果だけでなく調査の過程や苦労なども思い出しながら報告したい内容を考えられるよう声かけする。</p> <p>○出席番号順に3人グループをつくり、発表を聞きあう。</p>
<p>めあて わが家とのつながり調査の報告会をしよう。</p>	
<p>2. グループで報告会を行う。</p> <p>3. 「Think Globally Act Locally」のスローガンを聞き、わが家とのつながりを知ることが地域で行動するための第一歩であったことに気づく。調査や報告会を通して考えたことや感じたことを踏まえて、自分の生活を見直し、自分にできそうな取組を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでやってきたことは地域を知ることだったのか</li> </ul>	<p>○1人3～5分程度で発表を行い、終わったら調査報告書を回し読みするようにする。</p> <p>○「Think Globally Act Locally」(地球規模で考えて、地域で行動せよ)というスローガンを提示することで、自分の生活と自分の住む地域とのつながりを知ることが地域で行動する第一歩になることを伝える。</p> <p>○自分の生活を見直し、行動していくことが地域や世界のためになるというサイクルを提示し、視覚的に認識できるようにする。</p>
<p>4. 考えた取組を行うことによって地域や社会にどのような影響(効果)がありそうか予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>汚れた食器は一度拭いてから洗うようにして、水を汚さないように心がけたら、川や海をきれいに保てそうだな。</li> <li>近所の人たちに自分からあいさつをするようにしてつながりを増やしていくことは、防犯や防災に役立ちそうだな。</li> </ul>	<p>○これまでに用いたワークシート等を用いて、見つけたつながりを振り返りながら取組を考えることで、取組が地域や社会に与える影響(効果)を予想できるようにする。</p>
<p>5. 振り返りシートに考えた取組とその影響(効果)を書く。単元を通して考えたことや感じたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活は自分の住む町とたくさんつながっているから、自分の生活をもっと見直していきな。</li> <li>取組を続けていけば地域や環境を守ることに繋がっていきそうだな。</li> </ul>	<p>○考えた取組を自分の言葉でまとめる活動を行うことで、今後の生活の中で思い返し、意識的に取り組もうとする態度を養うようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>評価の観点(学びに向かう力・人間性等)</b></p> <p>よりよい生活の在り方を想像し、自分にできそうな取組を考えることができる。</p> <p>(評価方法: 振り返りシート、発表の様子)</p> </div>

## (3) 調査項目と分析

## 1) 調査 I ESDに関する質問紙調査

ESDの視点に立った学習指導では「持続可能な社会づくりに関わる課題を見出し、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付ける」(国立教育政策研究所, 2012)ことが目標として掲げられている。授業による「必要な能力や態度」の変容を明らかにするために、国立教育政策研究所(2012)のリーフレット『ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み』に記載されている「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度(例)」をアンケート作成の視点とする。重視する能力・態度は「批判的に考える力」「未来像を予測して計画を立てる力」「多面的, 総合的に考える力」「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する態度」「つながりを尊重する態度」「進んで参加する態度」の7つが示されている。この7つの観点を加賀ら(2018)が「家庭科ESDシート」に反映させたものが「批判的思考力(ものごとの本質を見抜く力, 分析的に考える力)」「未来を見通して考える力」「多面的, 総合的に考える力」「コミュニケーション能力(聞く・話す・伝えるを行う力)」「他者と協力する態度(協働)」「つながり・かかわりを尊重する態度(人・もの・ことなど)」「主体的に参加しようとする態度」の7つである。本研究における授業実践は「家庭科ESDシート」

を単元指導計画に用いていることから、加賀ら(2018)の示した7つの観点について授業による効果を検討するための質問項目を各2項目、合計14項目独自に作成した(表10)。なお回答は、「あてはまる(4点)」から「あてはまらない(1点)」で評定させた。なお、本研究で作成した質問項目に含まれる家庭科ESDで育成すべき7つの能力や態度を、以下では「必要な能力や態度」と呼ぶこととする。

## 2) 地域に関する質問紙調査

学習前後で「地域への態度」の変容を検討するための指標として地域に対する「情意」「認知」「意識」「関わり・行動」を観点に10項目を独自に作成した(表11)。なおこの回答も、「あてはまる(4点)」から「あてはまらない(1点)」で評定させた。

調査対象となる児童らが通う小学校には校区がなく、自力通学できる範囲の地域に住む児童が回答することもあり、自分の住む地域という言葉で「自分の家の周辺や住んでいる町」と定義づけ質問紙の冒頭に記載した。これにより、児童らが自分の生活に身近な地域を具体的に思い浮かべながら質問紙に回答できると考えられる。

## 3) 自由記述による調査

全3回の授業を終えた段階において、「ふりかえり・感想」という項目に記述させた。記述内容が多岐にわたるものは内容ごとに分類・計上することとした。

表10 必要な能力・態度に関する質問項目

質問内容		
批判的思考力	1	人から聞いたことやテレビや新聞、インターネットなどで知った情報について、その情報が正しいかどうか確かめようとしていますか。
	2	物を選んだり、買ったるときによく考えてから決めるようにしていますか。
未来を見通して考える力	3	未来の自分や社会はどのような様子か想像したり考えたりすることがありますか。
	4	自分の住む地域や身の回りの自然のために、自分にできることがあると思いますか。
多面的、総合的に考える力	5	自分が使わなくなった物はすぐに捨てずに、他の使い道がないか考えたり、欲しい人にあげたりしますか。
	6	自分がこまったとき、これまで学んだことや経験したことを使ったり、組み合わせたりして解決しようとしていますか。
コミュニケーション能力	7	自分の考えを相手に伝えるときに、自分なりに整理してから話すようにしますか。
	8	相手の話を聞くときに、相手はどんな気持ちや考えで話しているのかを想像しますか。
他者と協力する態度	9	家族や周りの人から何かたのまれたとき、進んで引き受けますか。
	10	家族や周りの人がこまっていたら進んで手助けをしてあげたいと思いますか。
つながり・かかわりを尊重する態度	11	自分の生活や行動は、自分の住む地域や自然に関係していると思いますか。
	12	家族や周りの人、自分の住む地域や自然などに感謝の心をもつことはありますか。
主体的に参加しようとする態度	13	家族の一員として、家事などのお手伝いを進んでしたいと思いますか。
	14	自分の住む地域の行事(運動会や文化祭など)に進んで参加したいと思いますか。

表11 地域に関する質問項目

質問内容		
情意	1	自分の住む地域のことが好きですか。
認知	2	自分の家から一番近いコミュニティーセンター（公民館）やごみステーションの場所を知っていますか。
認知	3	自分の住む地域にどんなお店や会社があるか知っていますか。
意識	4	自分の住む地域に自まんでできる人・もの・ことがあると思いますか。
意識	5	自分は地域を支える一員であると思いますか。
意識	6	自分の住む地域の人はあなたのことを見守ってくれていると思いますか。
情意	7	自分の住む地域にこれからも住み続けたいと思いますか。
関わり・行動	8	自分の住む地域の人に進んであいさつをしますか。
関わり・行動	9	自分の住む地域の行事（祭り、運動会、文化祭など）に進んで参加しますか。
情意	10	地域のために何かできることがあれば進んでやりたいですか。

## 4. 結果

### (1) 授業開発の結果

1時間目は、わが家にあるものや生活に使うものの中に、わが家の外から来たものにはどんなものがあるかを考えることから始めた。家具・家電に止まることなく衣服や食料、電気や水などあらゆるものが外から来ていることを押さえることができた。授業者の用意した「わが家のつながりマップ」(図1)を見て、生活必需品の調達やライフラインなどといったつながりのみならず、公民館などの施設や近隣住民とのつながりもあることに気が付いているようだった。個人で「わが家のつながりマップ」を作成する際は、自身の生活がどのように周囲と関わっているのか思い出しながら活動していた。

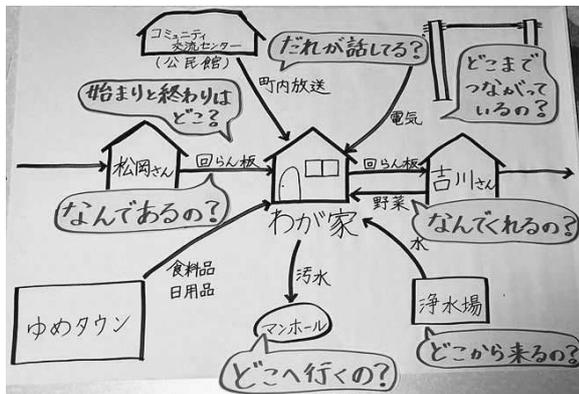


図1 わが家のつながりマップ

2時間目は、1時間目に作成した「わが家のつながりマップ」を基に、つながりに対する疑問を見つけることから始めた。吹き出しに疑問を記した教具が黒板に提示されているマップに張り付けられていくのを見た後に、自身のマップに赤ペンで疑問を付け足していった。「下水は最後どこへ行くのか」「回覧板には誰が紙をはさんでいるのか」「近所の人はどうしてたけのこをくれるのか」など、様々な疑問が挙げられた。初めは何も疑問がないと言っていた児童も、近くの児童の疑問を見ながら視野を広げ、疑問を見つけることができていた。その後、疑問を調べる方法を考え、ワークシートに記入した。

3時間目は、調べ学習の成果を新聞やレポートの形式でA3の用紙にまとめてくることを課題としており、各自が調べてきた疑問について3人1グループで報告し合った。自分の調べてきたことを伝えることができただけでなく、他者が調べてきたことについても知る機会となった。また、報告が早く終わったグループの児童らが、他のグループの報告を積極的に聞きに行っている姿が見られた。報告会の後、全体でこれまでの学習活動の振り返りを行った。「わが家と地域とのつながりを知る→自分たちにできることを考える→実行する→よりよい生活」というよりよい生活をゴールとした際の道のりの図を用いて、児童に自分自身がどの段階にいるのかを選択させて、各児童の進捗を確認させた。自分たちにできることを考える際には、家庭ごみの減量への工夫や水、電気などの無駄遣いをやめる、エコバックで買い物をする、地域の人に恩返しをする、回覧板を家族でもっていくなど、調査したことや友達から聞いたこと、改めて考えたことを基にアイデアを膨らませていた。道のりの図によって、自分たちの進捗を確認したこともあり、実行への意欲が高まっている様子が児童同士の会話から感じられた。

### (2) 質問紙調査の結果

#### 1) 「必要な能力や態度」の学習による変化

初めに「必要な能力や態度」に含まれる7つの観点ごとに項目平均値を算出した。そして、7つの観点ごとに学習前後で対応のあるt検定を行った(表12)。その結果、「未来を見通して考える力」、「多面的、総合的に考える力」「つなぎ・かかわりを尊重する態度」「主体的に参加しようとする態度」

表12 必要な能力・態度における各得点のt検定結果(n=50)

	学習前		学習後		t(49)値	d値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
批判的思考力	2.98	(0.68)	2.96	(0.66)	0.17	.02
未来を見通して考える力	2.94	(0.77)	3.13	(0.66)	2.03*	.29
多面的、総合的に考える力	2.92	(0.73)	3.18	(0.66)	2.73**	.38
コミュニケーション能力	2.96	(0.59)	2.92	(0.67)	0.47	.06
他者と協力する態度	3.08	(0.55)	3.22	(0.68)	1.68	.23
つなぎ・かかわりを尊重する態度	2.94	(0.69)	3.21	(0.62)	2.98**	.42
主体的に参加しようとする態度	2.91	(0.66)	3.14	(0.56)	2.14*	.30

\*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

うとする態度」で学習前後の得点差が有意であり、学習前よりも学習後で得点が高くなった。

2) 「地域に対する態度」

初めに「地域に対する態度」に含まれる4つの観点ごとに項目平均値を算出した。そして、4つの観点の項目平均値ごとに、学習前後で対応のあるt検定をそれぞれ行った(表13)。その結果、4つすべての観점에서学習前後

表13 地域に対する態度における各得点のt検定結果(n=50)

	学習前		学習後		t(49)値	d値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
情意	3.18	(0.48)	3.38	(0.57)	2.99**	.42
認知	2.98	(0.74)	3.16	(0.79)	2.02*	.28
意識	2.64	(0.57)	2.82	(0.67)	2.25*	.31
関わり・行動	2.74	(0.57)	3.07	(0.63)	4.04***	.57

\* p < .05, \*\* p < .01, \*\*\* p < .001

の得点差が有意であり、学習前より学習後で得点が高くなった。

3) 学習後のワークシートにおける自由記述内容の分析

学習後の自由記述の分類については、KJ法を用いて分類をした。全体の約34%の児童が自身の生活と地域や自然環境とのつながりを見出し、よりよい生活を目指して自身の考えた取り組みを実行したい、実践したい、行動にうつしたいといった内容を述べていた。また、育成したい資質・能力として挙げていた学び合いやつながり実感、他者との協力について記述している児童が全体の約24%で見られた。さらに、グローバル思考に関する記述からは学習によって自身の生活と世界との関わりへの気づきが、探求心に関する記述からは、学習をもっと深めたいといった思いが見受けられた(表14)。

表14 自由記述の内容の分析

分類	記述内容	同様の感想の児童数 (%)
実践意欲	○今日、自分にできそうなことを考えました。ぼくは水道掃除なので、実行するときにたくさんあるので、その時はできるだけ水を少なく無駄遣いしないようにしたいです。 ○私はわが家と地域とのつながりを知って、今まで知らなかったことがたくさんありました。そして、自分にできることを考えたときは多分もっとできると思って、それをもっともっと考えて、「エコ」のことも考えて、さらにそれを行動にうつしたいと思っています。それと、自然を大切に生活をしたなと思っています。	26名 (34.2%)
学び合い	○みんなのレポートを見ていて、身近にあって意外と知らないことってたくさんあるんだなと思いました。 ○調査の報告会ではみんなに意見を伝えられたし、みんなの意見でいろいろ分かって良かったです。	9名 (11.8%)
考えることができた・よかった	○今日、しっかりと今の自分にできることを考えることができました。 ○今日、地球にはよくないことをしていることを知って、いろんな対策などを考えられたので良かったです。	7名 (9.2%)
アイデア	○どうしたらよりよい生活になるか考えて、ぼくは物を大切にしたらいいと思いました。理由は物を大切にしたらごみが減ると思ったからです。 ○自分にできそうなことを考えて、僕はポイ捨てをしないということを考えました。理由はこの捨てたごみを生き物が食べたら大変だからです。	7名 (9.2%)
グローバル思考	○今回は、いろいろ地域のことを考えてみて、私は地域の周りをもう一度見て、なにができるかを考えてみたり、自分から地域の人に手紙を出したりして、世界をきれいにしていき、みんなが毎日、気持ちよく過ごせるために協力したいです。 ○世界が少しでも変わるかもしれないことを知って、自分の世界と向き合う気持ちが少し変わったのかもしれない。	6名 (7.9%)
つながり実感	○最初は我が家と近所のつながりとかは少ないと思っていたけど、回覧板を回したり、文化祭があったりして、けっこうあるなと思いました。 ○今日、報告会をしてみて、最初は小さな地域の話だったけど、最後は世界の話になって、調べていた内容や、していたことは、そんなに世界とつながることだとは思わなかったのでびっくりしました。	5名 (6.6%)
他者との協力	○今日は、自分にできることを考えて、それを実行させないと意味がありません。なので、この三時間勉強したことを地域の人と一緒に、みんなと一緒に解決していけたらうれしいです。 ○一人一人、この学年の人たちがやって、家の人々もやっていたら、リサイクルや節約ができると思います。	4名 (5.3%)
探求心	○自分にできる取り組みを2個考えたけど、これが本当に実行に移すことができるかできるのかは分かりません。が、もう少し大きくなったり、いろいろな事を知ったらできるかもしれないと思いました。まだまだ考えることができるかもしれないので、もっと考えてみたいです。 ○海ごみも地球温暖化に関係しているので、自分にできることをもっと探したいです。	4名 (5.3%)

知ることができた ・ よかった	○わが家とのつながり調査をしてみて、どんなつながりがあるのかとか、どうやったら地球のために活動ができるのかということを知ることができたのでよかったです。 ○今までは、下水をきれいにするところがあるなんて知らなかったけど、やはりなかったら海や川がすごく汚れるので、すごく大切な所だと知れたので良かったです。	4名(5.3%)
その他	○自分にできそうな取り組みで考えたこともしっかりと頭の中に入れて、覚えておきたいです。	1名(1.3%)
	○自分が思った以上にできることがあってびっくりしました。そしてよりよい生活になるようにするために「しなくちゃいけないことがいっぱいあるんだなあ。」と思いました。	1名(1.3%)
	○自分にできそうなことを少し考えてみるときに、自分が調べたことを活かすことができたので良かったです。	1名(1.3%)
	○今回、9億弱のうちの30人が頑張っても微妙に変わっているかそんな事ないかのレベルの話だけど、それでもマシはマシかな?と思いました。	1名(1.3%)

## 5. 考察

### (1) 小学校家庭科においてESDの視点に立った授業実践を展開する意義

森下ら(2013)は、ESDの基本的な視点を授業づくりに取り入れることは、家庭科、ESDの学びの両者を充実させていくことにつながっていくと述べている。今回、全3時間の授業実践で持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度のうち「未来を見通して考える力」「多面的、総合的に考える力」「つながり・かかわりを尊重する態度」「主体的に参加しようとする態度」の4観点が有意に高くなった。今回の授業実践において、1時間目の内容が「つながり・関わりを尊重する態度」2時間目の内容が「主体的に参加しようとする態度」3時間目の内容が「未来を見通して考える力」「多面的・総合的に考える力」の育みに関連していると考えられる。一方で、「批判的思考力」「コミュニケーション能力」「他者と協力する態度」については学習前後の違いが生じなかったが、これは、今回、個人でテーマを設定し、調査を行ったこと、学びが構想で終わってしまったことなどが理由として考えられる。一方で自由記述の内容からは、地域のことから世界に目を向けていた児童やもっと世界について知りたいといった探求心を高めた児童の存在があり、ESDに関連するトピックスが見られた。

以上の結果より、生活事象を協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生活をよりよくしようとする資質・能力を育成することを目指す家庭科と、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動であるESDは親和性があり、児童らに持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養う上で家庭科教育が果たす役割は大きいと言える。

### (2) 「未来を見通す力」の変容

本研究の授業実践(3時間目)は、よりよい生活という未来像へ向かって取り組みたいことを考えるという活動を取り入れていた。この活動が「未来を見通して考える力」を醸成したのではないかと考えられる。

### (3) 家庭科ならではの地域の扱い方

本研究では地域を「自分の家の周辺や住んでいる町」

と定義付け、地域の人々やもの、自然環境を限定せずに扱った。その結果、児童一人一人が自身の生活と地域とのつながりを可視化する中で見つけた多様な疑問が発表の場に持ち込まれた。ライフラインなどに対する疑問を調査した児童らは家庭科におけるC消費生活・環境で扱う内容項目の学びを、地域の人々とのつながりに着目しインタビューを行った児童らはA家族・家庭生活で扱う内容項目の学びを得ていた。平成29年告示の学習指導要領で「地域」というキーワードが新しく登場したのはA家族・家庭生活の(3)家族や地域の人々との関わりという部分である。本実践より、児童らが地域の人々に着目し実際に地域に出てインタビューを行うことで、家庭内に止まらない生活を営むための工夫を発見することができた。これは、小学校家庭科では地域を「地域の人々」に限定して着目させることで、地域の人々と自身の生活との関わりという家庭科ならではの地域に対する理解につながったと考える。福田(2004)は地域の扱いについて、教師自身がどのような目的をもって調査等の学習活動を取り上げていくかが重要であり、学習者自身が自分自身の地域生活の実状から意識化した自分たちとかかわった課題を解決する学習として進めることが大切であると述べている。このことから、今回、小学生段階において地域と自身の生活とののかかわりを見出すことを目的とした調査活動を設定したが、地域を題材にESDの視点に立った小学校家庭科における授業実践を行う上では、題材となる地域を「地域の人々」に限定し、交流等の実践的な授業の在り方を更に検討していく必要がある。

## 【引用文献】

ESD活動支援センター(2019)

[http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/about/pdf/message\\_01.pdf](http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/about/pdf/message_01.pdf)

福田恵子.(2004)Ⅲ「地域で学び育てる」家庭科の実践プラン. 武藤八恵子. 中学校家庭科教育に向けて 授業を拓く(pp132). 東京:教育図書.

石田好広.(2008). 第3章 ESDを実践するためのポイント. 多田孝志・手島利夫・石田好広. 未来をつくる教育ESDのすすめ(pp45). 東京:日本標準.

- 加賀恵子・妹尾理子・大矢英世・檜府暢子・西原直枝・井元りえ・佐藤典子・佐藤裕紀子・志村結美.(2018).家庭科の授業をESDとして展開するためのチェックシートの開発と有効性の検討.日本家庭科教育学会誌,61(3),140-151.
- 環境省(2002)「環境白書」  
<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h15/13445.html> (2021.1.7参照)
- 加納有希(2017)「優秀論文 未来社会を生きる自分を自覚し、主体的に生活をよりよくしようとする子の育成：ESDの視点を取り入れた家庭科の実践を通して（個人研究の部）」.愛知県教育研究論文集. 50, 19-28.
- 国立教育政策研究所 教育課程研究センター(2012)「ESDの学習指導過程を構想し、展開するために必要な枠組み」  
[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd\\_leaflet.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_leaflet.pdf)
- 文部科学省国際統括官付 日本ユネスコ国内委員会(2016)『ESD(持続可能な開発のための教育)推進の手引(初版)』  
[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/other/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/05/31/1369326\\_01\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/31/1369326_01_3.pdf) (2021.3.30参照)
- 文部科学省.(2018). 小学校家庭科 新旧内容項目一覧. 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説(pp11). 東京:株式会社東洋館出版社.
- 森下友紀・鈴木明子・由井義通・檜本和子.(2013) ESDの視点を取り入れた小学校家庭科の題材開発. 広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要. 41, 175-181  
[https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/3/34668/20141016203005200048/AnnEducRes\\_41\\_175.pdf](https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/3/34668/20141016203005200048/AnnEducRes_41_175.pdf)
- 西原直枝.(2018). 家庭科とESD. 伊藤葉子(編), 新版授業力UP 家庭科の授業(pp33). 東京:日本標準.
- 小野恭子・大竹美登利.(2014). 小学校家庭科における持続可能な開発のための教育(ESD)の授業開発. 日本家庭科教育学会誌, 57(2), 103-111.
- 大竹美登利.(2011). 1.1.2 家庭科の学びと「地域」とのかかわり. 大竹美登利・日景弥生編. 子どもと地域をつなぐ学び-家庭科の可能性-. (pp15). 東京:東京学芸大学出版会.
- 佐藤裕紀子・志村結美・加賀恵子・佐藤典子・西原直枝・妹尾理子・井元りえ・檜府暢子・大矢英世.(2019). 家庭科教員によるESDの授業実践の現状と課題. 日本家庭科教育学会誌. 62(3), 150-159.
- 妹尾理子.(2013). 持続可能な社会 1. 持続可能な開発のための教育(ESD). 望月一枝・倉持清美・妹尾理子・阿部睦子・金子京子編著. 生きる力をつける学習(pp125). 東京:教育実務センター.
- 篠原陽子.(2016). 中学校技術・家庭科衣生活領域におけるESD授業実践研究－洗濯の学習における持続性概念獲得と中学生の意思決定－. 日本教科教育学会誌. 38(4), 11-22.
- 竹下浩子.(2016)家庭科における持続可能な開発のための教育(ESD)－チョコレートを題材とした消費者教育－. 愛媛大学教育実践総合センター紀要. 愛媛大学教育学部附属教育実践総合センター編. 34, 63-68.
- 土屋善和.(2017). 第4章 第5節 地域の特徴と家庭科. 中西雪夫・小林久美・貴志倫子共編. 小学校家庭科の授業をつくる(pp44-47). 東京:学術図書.
- 上野正恵・妹尾理子(2016). 持続可能なライフスタイルへの転換をめざす家庭科教育：ライフスタイル思考(LCT)導入にむけた授業分析からの一考察. 環境教育, 26(24), 3-16.
- 柳 昌子.(1996). 実践の創造と模倣－開発された教材の伝播. 田結庄順子(編), 戦後家庭科実践研究(pp384-386). 東京:梓出版